

まちづくりの進め方

1 協働・共創のまちづくり

1 10年後に目指したい将来像

市民、事業者と行政がそれぞれの強みを発揮しながら協働し、多様な視点や価値観の融合の中から創造された斬新なアプローチでまちづくりが進んでいます。

2 10年後に避けたい三田の状況

A 市民・地域・事業者等及び行政間の情報共有ができておらず、意欲や持てる力を結集できていません。

3 10年後に目指したい三田の状況

情報共有や、課題・利用可能な資源・提案のマッチングが図られ、チーム三田で地域課題の解決に取り組んでいます。

①④

B 市民活動に対する支援が無実化し、意欲ある取り組みを実現しようとする機運が失われています。

持続可能性と実効性を兼ね備えた支援体制を励みに、意欲ある多様な人々や団体が次々と地域課題の解決に取り組んでいます。

②

C 市民活動の多くが、会員間の交流や特定のテーマに関する活動であり、その力をまち全体の課題解決につなげられていません。また、多様な人々の参加が進まず、活力や持続性が失われています。

公益の意識の下に地域の資源や課題・様々な団体等の情報が共有され、多様な人々のゆるやかなつながりでまちの課題を創造的に解決する機運が生まれています。

③

D

➡

E

➡

F

➡

5 成果指標

新規・継続	取り組み	指標名	単位	指標の目指す方向性	累計・単年度	基準値(基準年)	目標値(R8)	指標の算出方法・算出根拠
継続	①④	三田のまちづくりへの関心度	%	↑	単年度	72.0 (R2)	80.0	市民意識調査におけるアンケート結果
新	③	市民活動推進プラザへのアクセス数	件	↑	単年度	11,576 (R2)	17,000	相談件数と情報プラットフォームへのアクセス数の延べ合計
新	④	広報誌のまちの課題や市民活動に関する特集等が読まれている割合	%	↑	単年度	34.5 (R1)	70.0	市民意識調査におけるアンケート結果
新	④	SNSを活用した情報発信ツールの登録者件数	件	↑	単年度	—	47,000	情報発信ツールの登録者件数

◆主要な条例・規則◆

三田市まちづくり基本条例

◆関連計画◆

三田市協働のまちづくり基本方針

4 取り組み

市民

- ◆常に地域社会に関心を持ち、自分のできる事や得意なことなどで地域社会につながろうとする意欲を持ち続けます。
- ◆多様な人々の意見に耳を傾けながら、多様性と調和に基づく地域社会づくりに心がけます。

事業者・団体等

- ◆地域社会の一員として、事業活動や経営資源を活かしながら地域づくりに参加します。
- ◆協働・共創の連携基盤に積極的に参加し、地域課題の解決に向けた提案や情報提供を行います。

行政

① 協働を通じて地域やまちを創造する機運の醸成

行政・地域・団体・意欲ある市民相互の情報共有や、課題・利用可能な地域資源・提案のマッチングを推進し、多様な担い手が課題解決やまちづくりに協働しながら新しい価値観や解決策を創造する機運を醸成します。

② 意欲ある取り組みをチーム三田で支援するための仕組みの構築

行政や地域・事業者がもつ資源やひとり一人の志をコーディネートし、人財やノウハウ、資金等多面的なアプローチを視野に入れた支援の仕組みを構築します。

③ 市民活動推進プラザの共創基盤化

ICTを活用しながら地域活動や市民活動組織に関わる情報のオープン化や共有化を推進し、多様な市民の活躍を促すとともに、多様な資源や力をつなぐ拠点として機能を充実させ、共創のまちづくりの基盤として強化を図ります。

④ 情報の積極的な提供と共有化の推進

市民や事業者に必要な情報が届くよう積極的な情報発信を行うとともに、広報誌等において、まちづくり活動に関する課題や背景・思いなどの情報を届けることで、まちの魅力や課題・課題解決への取り組みなどを情報共有するとともに、市民の課題への意識や参加意欲の向上を促し、積極的な行動へとつながる情報発信に努めます。

⑤

⑥